

外国語学科 カリキュラムマップ(2025年度入学生)

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(タイ語、インドネシア語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語またはブラジルポルトガル語のいずれか)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ② 外国語(タイ語、インドネシア語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語またはブラジルポルトガル語)が使われている国・地域のことば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③ 外国語(コース言語)の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④ 異文化理解を踏まえた外国語(コース言語)によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤ あらゆる分野で外国語(コース言語)を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥ 国際的に通用する高度な外国語(コース言語)を駆使して日本と海外の橋渡し役になうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)											
	科 目 名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
外国語演習1	演習	3	2	外国語(コース言語)が使われている国・地域の文化、社会などの理解を深めながら、研究に必要な基礎知識を習得する。さらに発表・討議を通して主体的に研究を進めるための問題意識を涵養する。	1.研究に必要な文献などを検索し、資料や情報を収集することができる。 2.主体的に研究を進めるための問題意識を持つことができる。			○	◎			
外国語演習2	演習	3	2	収集した資料や情報などを通して研究対象の国・地域の文化、社会などについて多角的に理解する。さらに発表・討議を通して学術的な問題意識を高め、卒業論文・課題研究の作成に向けた準備を進める。	1.収集した資料や情報に基づいて発表・討議をすることができる。 2.関心のあるテーマについて学術的な問題意識を高めることができる。			○	◎			
外国語演習3	演習	4	2	収集した資料や情報などに基づく発表・討議を通して問題意識を掘り下げ、自身の卒業論文・課題研究の題目を設定する。さらに適切な研究方法を用いて卒業論文・課題研究の作成に取り組む。	1.発表・討議を通して議論を深めることができる。 2.収集した資料や情報などを整理し、卒業論文・課題研究の題目を設定することができる。			○	◎			
外国語演習4	演習	4	2	主体的に研究を進め、その成果を卒業論文・課題研究としてまとめる。発表と討議を通して資料や情報などを分析する能力、研究の成果を発表する能力、質疑応答の能力を高める。	1.研究成果を卒業論文・課題研究としてまとめることができる。 2.研究成果を他の人に説明し、質疑応答を通して納得させることができる。			○	◎			
海外語学実習	実習	1・2・3・4	4	習得した語学力を活用し、実習先でコミュニケーション力の向上を目指すだけでなく、実体験を通して現地の社会や文化についても学ぶ。	1.生活の中で実際に使われていることばを理解し、それを使って会話ができる。 2.学習で得られた外国語によるコミュニケーション力を活用できる。 3.実習先の社会や文化に関する知識や情報について説明できる。		◎	○		○	○	○
卒業課題研究		4	2	外国語学科における学修の集大成として、卒業課題研究の計画に沿って卒業課題研究を完成させる。	1.関心のある問題について、情報収集と分析を通して研究課題を設定することができる。 2.研究倫理に反することなく、科学的根拠に基づき、論理的・実証的に論術を展開し、説得力のある結論的主張が導かれた研究成果をまとめることができる。		◎	◎	◎	◎	◎	◎
卒業論文		4	4	外国語学科における学修の集大成として、卒業論文題目届の計画に沿って卒業論文を完成させる。	1.関心のある問題について、情報収集と分析を通して研究課題を設定することができる。 2.研究倫理に反することなく、科学的根拠に基づき、論理的・実証的に論術を展開し、説得力のある結論的主張が導かれた論文を作成することができる。		◎	◎	◎	◎	◎	◎

外国語学科タイ語コース カリキュラムマップ(2025年度入学生)												
ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(タイ語)の学位を授与します。 ①本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ②タイのことは、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③タイ語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④異文化理解を踏まえたタイ語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤あらゆる分野でタイ語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥国際的に通用する高度なタイ語を駆使して日本と海外の橋渡し役になうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)											
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
タイ語A(表記)	演習	1	2	標準タイ語の表記、いわゆるタイ文字の読み書きを学ぶ。タイ語の読み書きには、文字・記号の組み合わせによって決まる音節の仕組み・規則を理解する必要がある。この授業では練習を繰り返しながら読み書きの基礎を習得する。	1.タイ語の子音字、母音字、声調記号を覚える。 2.子音字、母音字、声調記号の組み合わせによって決まる音節の仕組み・規則が説明できる。 3.覚えた仕組み・規則を用いて、簡単な単語の読み書きができる。		○	◎		○	○	
タイ語A(会話)	演習	1	2	挨拶、自己紹介、日常生活に必要なタイ語の単語、基本文法と文型の学習を通じて会話を。相手の発音を聞き分ける練習をしながら、正しい発音の仕方を身につける。	1.5声調の発音を聞き分け、それぞれの声調を正しく発音することができる。 2.挨拶や自己紹介等の基礎的な会話ができる。		○	○		◎	○	
タイ語A(リスニング)	演習	1	1	基礎的なタイ語のリスニング技能を習得することを目的とする。単語から始まり、日常生活の簡単な挨拶、自己紹介など、コミュニケーションの基礎となる正確な発音につなげるための聞き取りの訓練を行う。	1.タイ語の単語・平易な文を聞き取り、意味が理解できる。 2.聞き取ったタイ語の単語・平易な文を正確に発音できる。		○	○		◎	○	
タイ語A(文法・表現)	演習	1	1	タイ語の入門レベルの文法と表現を習得することを目的としている。タイ語の基礎的な文法的特徴と慣用句を、短い例文によって提示し、解説することによって語、句、文の構造を理解する。	1.タイ語の語、句、文の構造を理解し、説明できる。 2.簡単な慣用句の意味を理解し、話すことができる。		○	◎		○	○	
タイ語B(表記)	演習	1	2	タイ語A(表記)での学習内容を踏まえ、練習を繰り返しながら読み書きの基礎を習得する。できるだけ多くの語彙、そしてタイ語の文例を学ぶことによりタイ語講読につながる基礎的な力を身につける。学期末には簡単な内容の短文が読めることを目指す。	1.基本的な単語の読み書きができる。 2.規則に当てはまらない例外的な単語の読み書きができる。 3.簡単な内容の短文を読み、意味が理解できる。		○	◎		○	○	
タイ語B(会話)	演習	1	2	文法と文型をしっかりと身につけながら、辞書の引き方を学んで語彙を増やし、さまざまな場面での表現を学習する。初級レベルの会話力を身につける。	1.辞書を引きながら簡単なタイ語で自分の考えを伝えることができる。 2.相手の話す簡単なタイ語を理解することができる。		○	○		◎	○	
タイ語B(リスニング)	演習	1	1	タイ語A(リスニング)での学習内容を踏まえ、さらなるリスニング能力の向上を目指し、日常会話のほか、生活様式、文化、社会に関する内容のタイ語を聞き取る訓練を行う。	1.タイ人の日常会話を聞き取り、意味が理解できる。 2.タイの文化、社会に関する簡単な内容のタイ語を聞き取り、意味が理解できる。		○	○		◎	○	
タイ語B(文法・表現)	演習	1	1	タイ語A(文法・表現)での学習を踏まえ、日常生活における身近な出来事や自分の意思を言葉で表現するために必要な慣用句を学習しながらタイ語の文法と表現を身につける。	1.タイ語の文法・表現を身につけ、簡単な文章を正確に作成することができる。 2.日常生活における出来事や自分の考えなどを表現できる。		○	◎		○	○	
タイ語C(講読1)	演習	2	1	タイ語文献の講読を通じ、基礎的な語彙力、文法知識、発音などを確認し、タイ語の読解力を養う。使用テキストには現代タイ社会に関するエッセイなど読みやすい内容を扱ったものを選定し、タイ社会に関する基礎知識が得られるよう配慮する。	1.タイ語の文章を読んで意味が理解できる。 2.学習した現代タイ社会に関する基礎知識を説明できる。		○	◎		○	○	
タイ語C(講読2)	演習	2	1	タイ語文献の講読を通じ、基礎的な語彙力、文法知識、発音などを確認し、タイ語の読解力を養う。使用テキストには現代タイ語に関するエッセイなど読みやすい内容を扱ったものを選定し、タイ語に関する基礎知識が得られるよう配慮する。	1.タイ語の文章を読んで意味が理解できる。 2.学習した現代タイ語に関する基礎知識を説明できる。		○	◎		○	○	
タイ語C(会話)	演習	2	1	タイ語を聞き取る力を養い、日常生活に必要なタイ語会話能力を身につける。文献、映像、歌詞等を通じて語彙を増やししながら幅広くタイのことを学習する。	1.辞書を引きながら特定のトピックについて話すことができる。 2.相手の話す特定のトピックの内容を理解することができる。		○	○		◎	○	
タイ語C(作文)	演習	2	1	習得したタイ語の語彙、授業中に学んだ文例・文型を用いて文を作る力を養う。またタイ語のおもな文法事項と文の構造を理解することにより、タイ語文章作成の基礎能力を身につける。さらにパソコン上のタイ文字のキー配列を学ぶ。	1.タイ語の語彙・文例・文型を用いて簡単な文を作ることができる。 2.パソコン上のタイ文字のキー配列を覚える。		○	○		◎	○	
タイ語D(講読1)	演習	2	1	タイ語文献の講読を通じ、基礎的な語彙力、文法知識、発音などを確認し、さらに高いレベルのタイ語の読解力習得を目指す。使用テキストには現代タイ社会に関するエッセイなど読みやすい内容を扱ったものを選定し、タイ社会に関する基礎知識のレベルが向上するよう配慮する。	1.タイ語の文章を読んで意味が理解できる。 2.学習した現代タイ社会に関するより高いレベルの基礎知識を説明できる。		○	◎		○	○	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(タイ語)の学位を授与します。 ①本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ②タイのことば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③タイ語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④異文化理解を踏まえたタイ語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤あらゆる分野でタイ語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥国際的に通用する高度なタイ語を駆使して日本と海外の橋渡し役をになうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)											
	科 目 名	授業形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
タイ語D(講読2)	演習	2	1	タイ語文献の講読を通じ、基礎的な語彙力、文法知識、発音などを確認し、さらに高いレベルのタイ語の読解力の習得を目指す。使用テキストには現代タイ語に関するエッセイなど読みやすい内容を扱ったものを選定し、タイ語に関する基礎知識のレベルが向上するよう配慮する。	1.タイ語の文章を読んで意味が理解できる。 2.学習した現代タイ語に関するより高いレベルの基礎知識を説明できる。	○	◎		○	○		
タイ語D(会話)	演習	2	1	タイ語A～C(会話)の授業で習得した基礎的な会話力をもとに、中級レベルの会話演習を行う。日本の文化やスポーツ等について簡単なタイ語の表現を学習する。	自分の趣味、日本の文化やスポーツを簡単なタイ語で伝えることができる。	○	○		◎	○		
タイ語D(作文)	演習	2	1	タイ語C(作文)の学習内容を踏まえ、これまで学んできた語彙・文例・文型を用いて文を作る力を養う。またおもな文法事項と文の構造を理解することにより、文章作成のより高度な能力を身につける。さらにパソコンでタイ文字を入力して文を作る訓練も行う。	1. タイ語の語彙・文例・文型を用いて文を作ることができる。 2. パソコンでタイ文字を入力して文を作ることができる。	○	○		◎	○		
タイ語E(講読1)	演習	3	1	タイ語文献の講読を通じ、語彙力、文法知識、発音などを確認し、高度なタイ語の読解力習得を目指す。使用テキストにはタイの社会・文化に関する専門的知識が得られる文献を選定し、タイに関する知識のレベルが向上するよう配慮する。	1.タイ語文献を読んで意味が理解できる。 2.学習したタイの社会・文化に関する専門的な知識の概要を説明できる。	○	◎		○	○		
タイ語E(講読2)	演習	3	1	タイ語文献の講読を通じ、語彙力、文法知識、発音などを確認し、高度なタイ語の読解力習得を目指す。使用テキストにはタイ語に関する専門的知識が得られる文献を選定し、かつタイに関する知識のレベルが向上するよう配慮する。	1.タイ語文献を読んで意味が理解できる。 2.学習したタイ語に関する専門的な知識の概要を説明できる。	○	◎		○	○		
タイ語E(会話)	演習	3	1	タイ語D(会話)の学習内容を踏まえ、「聞く」「話す」能力のさらなる向上のために、聞き取りと正確な発音に加え、語彙を増やし、文法の理解を深める。また、さまざまな表現も幅広く習得し、タイ語の会話力を向上させる。。	1.タイ人同士の会話の内容を聞き取ることができる。 2.正確にタイ語の発音をすることができる。 3.タイ語の文法と表現法を正しく用いてタイ人と会話をすることができる。	○	○		◎	○		
タイ語E(作文)	演習	3	1	感情、思想、意見などをタイ語によって他者に伝達できるよう、タイ語文章の要約技術を身につける。またタイ語に関する基礎知識、とくに慣用的表現法を確認する。さらにさまざまな文章の実例から、文書の種類に応じた構成、表現上の技法、語彙や修辞法などの検討を行う。	1.タイ語の文章を要約することができる。 2.タイ語の慣用的表現法を用いて作文することができる。 3.文書の種類に応じた作文ができる。	○	○		◎	○		
タイ語F(講読1)	演習	3	1	タイ語文献の講読を通じ、語彙力、文法知識、発音などを確認し、より高度なタイ語の読解力習得を目指す。使用テキストにはタイの社会・文化に関するより高度で専門的な知識が得られる文献を選定し、タイに関する知識のレベルが向上するよう配慮する。	1.タイ語文献を読んで意味が理解できる。 2.学習したタイの社会・文化に関する高度で専門的な知識の詳細を説明できる。	○	◎		○	○		
タイ語F(講読2)	演習	3	1	タイ語文献の講読を通じ、語彙力、文法知識、発音などを確認し、より高度なタイ語の読解力習得を目指す。使用テキストにはタイ語に関するより高度で専門的な知識が得られる文献を選定し、タイに関する知識のレベルが向上するよう配慮する。	1.タイ語文献を読んで意味が理解できる。 2.学習したタイ語に関する高度で専門的な知識の詳細を説明できる。	○	◎		○	○		
タイ語F(会話)	演習	3	1	タイ語E(会話)の学習内容を踏まえ、会話力をさらに高め、高度なタイ語コミュニケーション能力を身につける。そのため、自分の意見を表明し、相手に説明する訓練を行う。また、質疑応答を通して、タイ人と対等な会話ができるように訓練する。	1.タイ人がタイ語で話す経験、意見を聞き取ることができる。 2.タイ人に自分の経験、意見をタイ語で説明できる。 3.タイ人とタイ語で質疑応答ができる。	○	○		◎	○		
タイ語F(作文)	演習	3	1	タイ語E(作文)の学習内容を踏まえ、正確で読みやすいタイ語文書作成能力を高めるため、種々の文章作成技術を習得させる。またパソコンによるタイ語文書作成方法に習熟させる。	1. 自分の考えをタイ語でまとめ、さまざまな種類の文章にすることができる。 2. パソコンでタイ語の文書を作成できる。	○	○		◎	○		
タイ語G(翻訳)	演習	4	1	基本的な翻訳技術を学習し、教育、ビジネス、法律、医療、災害など、さまざまな種類の文書の翻訳を演練することにより、高度なタイ語運用能力を習得する。	1.教育、ビジネス、法律、医療、災害などの分野の基本的な専門用語の意味が理解できる。 2.教育、ビジネス、法律、医療、災害などの分野の文書を翻訳することができる。	○	◎		○	◎		
タイ語H(通訳)	演習	4	1	基本的な通訳技術を学習し、教育、ビジネス、法律、医療、災害など、さまざまな分野の通訳を演練することにより、高度なタイ語運用能力を習得する。	1.教育、ビジネス、法律、医療、災害などの分野の基本的な専門用語の意味が理解できる。 2.教育、ビジネス、法律、医療、災害などの分野の通訳をすることができる。	○	○		◎	◎		

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(タイ語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ② タイのことば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③ タイ語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④ 異文化理解を踏まえたタイ語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤ あらゆる分野でタイ語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥ 国際的に通用する高度なタイ語を駆使して日本と海外の橋渡し役をになうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)											
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
伝道タイ語1	演習	3・4	1	タイ語における一般的な宗教関連用語を学習しながら、とくに天理教教義のタイ語訳をめぐる諸問題について確認し、翻訳・通訳の技能を向上させることを目的とする。まずタイにおける天理教伝道史を概観する。また、天理教海外部発行の平易なタイ語出版物を講読し、タイ語訳をめぐる諸問題を検討する。	1.タイ語における宗教関連用語の意味が理解できる。 2.天理教教義のタイ語訳をめぐる諸問題の概略を説明できる。		○		○		◎	
伝道タイ語2	演習	3・4	1	タイ語における一般的な宗教関連用語を学習しながら、とくに天理教教義のタイ語訳をめぐる諸問題について確認し、翻訳・通訳の技能を向上させることを目的とする。天理教海外部発行のタイ語出版物の講読をとおしてタイ語による天理教教義の説明方法を学習し、通訳の訓練を行う。	1.基本的な天理教用語をタイ語で表記できる。 2.基本的な天理教教義をタイ語で説明できる。		○		○		◎	
タイ語で学ぶ日本文化	演習	3・4	1	タイ人との円滑なコミュニケーションをとおして相互理解を促進するために、日本文化を紹介したタイ語の文献資料や映像資料を教材にして、日本文化をタイ語で説明するためのタイ語運用能力を高め、タイ人に説明可能な日本文化に関する知識を習得する。	1.タイ人に説明するための日本文化に関する資料を収集できる。 2.日本文化をタイ語で説明できる。	○			○		◎	
観光タイ語	演習	3・4	1	タイを観光する、あるいはタイ人を日本で観光案内する時に必要な会話を身につけ、日本とタイの文化と宗教的な背景を把握しながら、両国の代表的な観光地とその由来を知り、関連の単語と表現を学習する。	1.タイへ観光する時に必要な実用的タイ語が使える。 2.タイ人に日本の代表的な観光地を紹介し説明することができる。		○		○	◎	○	
映像で学ぶタイ語	演習	3・4	1	タイのドラマ、映画、ドキュメンタリーなどからタイ語を学び、タイの社会・文化を映像から理解する。口語、流行語などの教科書に載っていないタイ語を学ぶ。	1.視聴した映像の内容を説明できる。 2.口語や流行語が理解できる。 3.ネイティブのタイ語を聞き取ることができる。		○		○	◎		
時事タイ語	演習	3・4	1	定期刊行物、新聞、視聴覚教材などを通じてタイ語における現代用語を様々な角度から習得し、現在のタイの政治、経済、社会、文化を読み解くことを目的とする。	1.タイ語の政治・経済・社会関連用語の意味が理解できる。 2.現代タイにおける時事問題の概略を説明できる。		○		○	◎		
タイ研究入門	講義	1	2	文献とデジタル情報からタイの地理、社会、歴史、文化について学習する。また日本の社会・文化と比較しながら関心のあるテーマを見つけ、それを探究する。	1.研究に必要な方法と技術(文献・情報検索、文献講読、文章の書き方)を活用できる。 2.タイについて関心のあるテーマで自分なりに説明することができる。	◎	○	◎				
タイ史	講義	2・3・4	2	なぜタイは他の東南アジア諸国のように欧米の植民地にならなかったのかを、19世紀から20世紀前半のアジア全体の状況を把握しながら、タイの近代化やナショナリズムに焦点を当てて考えていく。	1.19世紀から20世紀前半にかけてのアジア全体の政治・経済とタイの重要な出来事について説明できる。 2.歴史は現代社会にどのような影響を及ぼしているのかを例示して説明できる。	○	○	◎				
タイ社会文化論	講義	2・3・4	2	まずタイの社会制度について概説する。つぎにタイ文化を構成する基層文化、インド文化、中国文化、マレー・イスラム文化、西洋文化とメディアの発達による現代文化について講義する。また生活様式や価値・規範などについても論じる。	1.タイ社会について政治・経済などの観点から説明することができる。 2.タイ文化について宗教、生活様式などの観点から説明することができる。	○	○	◎				
タイ言語文化論	講義	2・3・4	2	日常生活におけるタイ人のさまざまな言語表現を具体的に取り上げ、日本語のそれと比較しながら、日・タイ両国の言語コミュニケーションの文化について考察する。	1.タイ語の言語表現の特徴について説明できる。 2.日・タイの言語コミュニケーションの共通点と相違点を説明できる。	○	○	◎	○			
タイと日本	講義	2・3・4	2	タイと日本の関係を歴史的に概観し、現在の政治・経済関係や文化交流の側面から詳細に検討する。またアセアン諸国との関係や国際社会における両国の立ち位置などにも焦点を当てて考察する。	1.タイと日本の二国間関係を歴史、政治、経済、文化交流の面から説明できる。 2.国際社会における立ち位置からタイと日本の関係を説明できる。	◎	○	○			◎	

外国語学科インドネシア語コース カリキュラムマップ(2025年度入学生)

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(インドネシア語)の学位を授与します。 ①本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ②インドネシアのことば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③インドネシア語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④異文化理解を踏まえたインドネシア語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤あらゆる分野でインドネシア語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥国際的に通用する高度なインドネシア語を駆使して日本と海外の橋渡し役をになうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)											
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
インドネシア語A(文法)	演習	1	2	インドネシア語の初級レベルの文法を学ぶ。	インドネシア語の初級文法の学習を進め、それらの用法を習得する。また習得した文法が使われた短いテキストの読解を目指す。	○	◎		○			
インドネシア語A(コミュニケーション)	演習	1	2	インドネシア語の初級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	インドネシア語の単語・表現を学習しながら基礎的な日常会話力を身につける。	○	○		◎			
インドネシア語A(語彙・表現)	演習	1	2	映像・音声教材を用いて、日常会話で使われる基本表現の音読練習を反復する。	インドネシア語運用能力の基礎となる語彙力および発音を身につける。	○	◎		○			
インドネシア語B(文法)	演習	1	2	インドネシア語の初級レベルの文法を学ぶ。	インドネシア語の初級文法の学習を進め、それらの用法を習得する。	○	◎		○			
インドネシア語B(コミュニケーション)	演習	1	2	インドネシア語の初級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	インドネシア語の単語・表現を学習しながら基礎的な会話力を身につける。	○	○		◎			
インドネシア語B(語彙・表現)	演習	1	2	映像・音声教材を用いて、日常会話で使われる基本表現の音読練習を反復する。	インドネシア語運用能力の基礎となる語彙力および発音を身につける。	○	◎		○			
インドネシア語C(文法・読解)	演習	2	2	インドネシア語の中級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	インドネシア語の中級レベルの文法を習得する。かつ習得した文法が用いられるテキストの読解力を身につける。	○	◎		○			
インドネシア語C(コミュニケーション)	演習	2	2	インドネシア語の中級文法の学習を進め、それらの用法を習得する。	インドネシア語の単語・表現を学習しながら中級レベルの会話力を身につける。	○	○		◎			
インドネシア語D(文法・読解)	演習	2	2	インドネシア語の中級文法の学習を進め、それらの用法を習得する。	インドネシア語の中級レベルの文法を習得する。かつ習得した文法が用いられるテキストの読解力を身につける。	○	◎		○			
インドネシア語D(コミュニケーション)	演習	2	2	インドネシア語の中級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	インドネシア語の単語・表現を学習しながら中級レベルの会話力を身につける。	○	○		◎			
インドネシア語E(総合)	演習	3	2	インドネシア語の既習の文法、読解、語彙、リスニングの能力を総合的に用いて、作文・リスニングを中心とした上級レベルの語学力の錬成をはかる。	インドネシア語の中～上級レベルの総合的な語学力を身につける。	○	◎		○			
インドネシア語E(コミュニケーション)	演習	3	2	インドネシア語の上級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	インドネシア語の単語・表現を学習し、中～上級レベルの会話力を身につける。	○	○		◎			
インドネシア語F(総合)	演習	3	2	インドネシア語の既習の文法、読解、語彙、リスニングの能力を総合的に用いて、作文・リスニングを中心とした上級レベルの語学力の錬成をはかる。	インドネシア語の中～上級レベルの総合的な語学力を身につける。	○	◎		○			

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(インドネシア語)の学位を授与します。 ①本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ②インドネシアのこば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③インドネシア語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④異文化理解を踏まえたインドネシア語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤あらゆる分野でインドネシア語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥国際的に通用する高度なインドネシア語を駆使して日本と海外の橋渡し役をになうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)											
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
インドネシア語F(コミュニケーション)	演習	3	2	インドネシア語の上級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	インドネシア語の単語・表現を学習し、中～上級レベルの会話力を身につける。	○	○		◎			
インドネシア語G(総合)	演習	4	1	インドネシア語の既習の文法、読解、語彙、リスニングの能力を総合的に用いて、作文・リスニングを中心とした上級レベルの語学力の錬成をはかる。	インドネシア語の上級レベルの総合的な語学力を身につける。	○	◎		○	◎		
インドネシア語H(コミュニケーション)	演習	4	1	インドネシア語の上級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	インドネシア語の単語・表現を学習しながら上級レベルの会話力を身につける。	○	○		◎	◎		
伝道インドネシア語1	演習	3・4	1	インドネシア語における一般的な宗教関連用語を学習しながら、とくに天理教教義のインドネシア語訳をめぐる諸問題について確認し、翻訳・通訳の技能を向上させることを目的とする。まずインドネシアにおける天理教伝道史を概観する。また、天理教海外部発行の平易なインドネシア語出版物を講読し、インドネシア語訳をめぐる諸問題を検討する。	1.インドネシア語における宗教関連用語の意味が理解できる。 2.天理教教義のインドネシア語訳をめぐる諸問題の概略を説明できる。		○		○		◎	
伝道インドネシア語2	演習	3・4	1	インドネシア語における一般的な宗教関連用語を学習しながら、とくに天理教教義のインドネシア語訳をめぐる諸問題について確認し、翻訳・通訳の技能を向上させることを目的とする。天理教海外部発行のインドネシア語出版物の講読をとおしてインドネシア語による天理教教義の説明方法を学習し、通訳の訓練を行う。	1.基本的な天理教用語をインドネシア語で表記できる。 2.基本的な天理教教義をインドネシア語で説明できる。		○		○		◎	
インドネシア語で学ぶ日本文化	演習	2・3・4	1	インドネシア人との円滑なコミュニケーションをとおして相互理解を促進するために、日本文化を紹介したインドネシア語の文献資料や映像資料を教材にして、日本文化をインドネシア語で説明するためのインドネシア語運用能力を高め、インドネシア人に説明可能な日本文化に関する知識を習得する。	1.インドネシア人に説明するための日本文化に関する資料を収集できる。 2.日本文化をインドネシア語で説明できる。	○			○		◎	
通訳インドネシア語	演習	2・3・4	1	通訳についての基礎知識を学び、これまでに習得したインドネシア語力を土台にさまざまなテーマの通訳演習を行う。インドネシア語・日本語の語彙力や表現力を高め、専門的なスキルを身につけさせる。	1.さまざまな通訳演習を通して、各分野の語彙力や表現力を身につける。 2.インドネシア語と日本語の文の構造の違いを意識しながら、中級レベルの通訳ができるようになる。	○				◎	○	
観光インドネシア語	演習	2・3・4	1	インドネシアを観光する、あるいはインドネシア人を日本で観光案内する時に必要な会話力を身につけ、日本とインドネシアの文化と宗教的背景を把握しながら、両国の代表的な観光地とその由来を知り、関連の単語と表現を学習する。	1.インドネシアへ観光する時に必要な実用的インドネシア語が使える。 2.インドネシア人に日本の代表的な観光地を紹介し説明することができる。		○		○	◎	○	
時事インドネシア語	演習	2・3・4	1	定期刊行物、新聞、視聴覚教材などを通じてインドネシア語における現代用語をさまざまな角度から習得し、現在のインドネシアの政治、経済、社会、文化を読み解くことを目的とする。	1.インドネシア語の政治・経済・社会関連用語の意味が理解できる。 2.現代インドネシアにおける政治・経済・社会問題の概略を説明できる。		○		○	◎		
インドネシア研究入門	講義	1	2	文献とデジタル情報からインドネシアの地理、社会、歴史、文化について学習する。また日本の社会・文化と比較しながら関心のあるテーマを見つけ、それを探究する。	1.研究に必要な方法と技術(文献・情報検索、文献講読、文章の書き方)を活用できる。 2.インドネシアについて関心のあるテーマで自分なりに説明することができる。	◎	○	◎				
インドネシア史	講義	2・3・4	2	インドネシア語の起源であるマレー語はインドネシアだけでなく、東南アジア島嶼部で広く使われている。インドネシア人の起源から中世以降の植民地化、そして現代国家独立までの過程を考える。	1.インドネシア人の起源であるオーストロネシア語族その他の拡散と混交の過程について理解できる。 2.インドネシアにおける古代王国から日本軍政期を含む植民地時代、その後の国家独立について説明できる。	○	○	◎				
インドネシア社会文化論	講義	2・3・4	2	インドネシア文化を構成する基層文化、インド文化、中国文化、マレー・イスラム文化、西洋文化とメディアの発達による現代文化について講義する。また生活様式や価値・規範などについても論じる。	1.インドネシア社会について政治・経済などの観点から説明することができる。 2.インドネシア文化について宗教、生活様式などの観点から説明することができる。	○	○	◎				
インドネシア言語文化論	講義	2・3・4	2	インドネシア人の祖先であるオーストロネシア語族の言語的特徴(接辞、量語など)を概観し、それらを使った文章表現を学ぶ。	1.インドネシア語の言語表現の特徴について説明できる。 2.インドネシア語特有の表現方法を理解できる。	○	○	◎	○			
インドネシアと日本	講義	2・3・4	2	インドネシアと日本の関係を歴史的に概観し、現在の政治・経済関係や文化交流の側面から詳細に検討する。またアセアン諸国との関係や国際社会における両国の立ち位置などにも焦点を当てて考察する。	1.インドネシアと日本の二国間関係を歴史、政治、経済、文化交流の面から説明できる。 2.国際社会における立ち位置からインドネシアと日本の関係を説明できる。	◎	○	○			◎	

外国語学科ドイツ語コース カリキュラムマップ(2025年度入学生)

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(ドイツ語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ② ドイツ語が使われている国・地域のことば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③ ドイツ語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④ 異文化理解を踏まえたドイツ語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤ あらゆる分野でドイツ語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥ 国際的に通用する高度なドイツ語を駆使して日本と海外の橋渡し役になうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)													
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎ 達成のために特に重要 ○ 達成のために重要							
							①	②	③	④	⑤	⑥		
ドイツ語A(文法・読解)	演習	1	2	ドイツ語の初級レベルの文法を学ぶ。	ドイツ語の初級文法の学習を中心に進め、それらの用法を習得する。また習得した文法が使われた短いテキストの読解を目指す。	○	◎		○					
ドイツ語A(コミュニケーション)	演習	1	2	ドイツ語の初級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	ドイツ語の単語・表現を学習しながら基礎的な日常会話を身につける。	○	○		◎					
ドイツ語A(語彙・発音)	演習	1	1	映像・音声教材を用いて、日常会話で使われる基本表現の音読練習を反復する。	ドイツ語運用能力の基礎となる語彙力および発音を身につける。	○	◎		○					
ドイツ語A(リスニング)	演習	1	1	映像・音声教材を用いて、日常会話で使われる基本表現の聞き取り練習を反復する。	ドイツ語運用能力の基礎となるリスニング力を身につける。	○	○		◎					
ドイツ語B(文法・読解)	演習	1	2	ドイツ語の初級レベルの文法を学ぶ。	ドイツ語の初級文法の学習を進め、それらの用法を習得する。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1を目指す。	○	◎		○					
ドイツ語B(コミュニケーション)	演習	1	2	ドイツ語の初級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	ドイツ語の単語・表現を学習しながら基礎的な会話を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1を目指す。	○	○		◎					
ドイツ語B(語彙・発音)	演習	1	1	映像・音声教材を用いて、日常会話で使われる基本表現の音読練習を反復する。	ドイツ語運用能力の基礎となる語彙力および発音を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1を目指す。	○	◎		○					
ドイツ語B(リスニング)	演習	1	1	映像・音声教材を用いて、日常会話で使われる基本表現の聞き取り練習を反復する。	ドイツ語運用能力の基礎となるリスニング力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1を目指す。	○	○		◎					
ドイツ語C(文法・読解)	演習	2	2	ドイツ語の中級文法の学習を進め、それらの文法が用いられたテキストの読解力の錬成をはかる。	ドイツ語の中級レベルの文法を習得し、それらの文法が用いられたテキストを読解する力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1を確実に達成することを目指す。	○	◎		○					
ドイツ語C(コミュニケーション)	演習	2	1	ドイツ語の中級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	ドイツ語の単語・表現を学習しながら中級レベルの会話を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1を確実に達成する。	○	○		◎					
ドイツ語C(作文)	演習	2	1	ドイツ語の中級レベルの文法を用いた作文能力の錬成をはかる。	ドイツ語の既習の単語・表現を用いて中級レベルの作文力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1を確実に達成する。	○	○		◎					
ドイツ語D(文法・読解)	演習	2	2	ドイツ語の中級文法の学習を進め、それらの文法が用いられたテキストの読解力の錬成をはかる。	ドイツ語の中級レベルの文法を習得し、それらの文法が用いられたテキストを読解する力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2を目指す。	○	◎		○					
ドイツ語D(コミュニケーション)	演習	2	1	ドイツ語の中級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	ドイツ語の単語・表現を学習しながら中級レベルの会話を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2を目指す。	○	○		◎					

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(ドイツ語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ② ドイツ語が使われている国・地域のことば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③ ドイツ語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④ 異文化理解を踏まえたドイツ語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤ あらゆる分野でドイツ語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥ 国際的に通用する高度なドイツ語を駆使して日本と海外の橋渡し役をになうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)											
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎ 達成のために特に重要 ○ 達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
ドイツ語D(作文)	演習	2	1	ドイツ語の中級レベルの文法を用いた作文能力の錬成をはかる。	ドイツ語の既習の単語・表現を用いて中級レベルの作文力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2を目指す。	○	○		◎			
ドイツ語E(文法・読解)	演習	3	1	ドイツ語の既習の文法、読解、語彙の能力を用いて、上級レベルの読解力の錬成をはかる。	ドイツ語の上級レベルの読解力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1を目指す。	○	◎		○			
ドイツ語E(総合)	演習	3	1	ドイツ語の既習の文法、読解、語彙、リスニングの能力を総合的に用いて、上級レベルの語学力の錬成をはかる。	ドイツ語の上級レベルの総合的な語学力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1を目指す。	○	◎		○			
ドイツ語E(コミュニケーション)	演習	3	1	ドイツ語の上級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	ドイツ語の単語・表現を学習しながら上級レベルの会話力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1を目指す。	○	○		◎			
ドイツ語E(作文)	演習	3	1	ドイツ語の上級レベルの文法を用いた作文能力の錬成をはかる。	ドイツ語の既習の単語・表現を用いて上級レベルの作文力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1を目指す。	○	○		◎			
ドイツ語F(文法・読解)	演習	3	1	ドイツ語の既習の文法、読解、語彙の能力を用いて、上級レベルの読解力の錬成をはかる。	ドイツ語の上級レベルの読解力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2を目指す。	○	◎		○			
ドイツ語F(総合)	演習	3	1	ドイツ語の既習の文法、読解、語彙、リスニングの能力を総合的に用いて、上級レベルの語学力の錬成をはかる。	ドイツ語の上級レベルの総合的な語学力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2を目指す。	○	◎		○			
ドイツ語F(コミュニケーション)	演習	3	1	ドイツ語の上級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	ドイツ語の単語・表現を学習しながら上級レベルの会話力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2を目指す。	○	○		◎			
ドイツ語F(作文)	演習	3	1	ドイツ語の上級レベルの文法を用いた作文能力の錬成をはかる。	ドイツ語の既習の単語・表現を用いて上級レベルの作文力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2を目指す。	○	○		◎			
ドイツ語G(総合)	演習	4	1	ドイツ語の上級レベルの実践的な語学力の錬成をはかる。	ドイツ語の既習の文法、語彙、読解、会話、リスニングおよびコミュニケーションの能力を駆使して、上級レベルの実践的な語学力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルC1を目指す。	○	◎		◎			
ドイツ語H(総合)	演習	4	1	ドイツ語の上級レベルの実践的な語学力の錬成をはかる。	ドイツ語の既習の文法、語彙、読解、会話、リスニングおよびコミュニケーションの能力を駆使して、上級レベルの実践的な語学力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルC1を目指す。	○	◎		◎			
伝道ドイツ語1	演習	3・4	1	ドイツ語における一般的な宗教関連用語を学習しながら、とくに天理教教義のドイツ語訳をめぐる諸問題について確認し、翻訳・通訳の技能を向上させることを目的とする。まずドイツにおける天理教伝道史を概観する。また、天理教海外部発行の平易なドイツ語出版物を講読し、ドイツ語訳をめぐる諸問題を検討する。	1.ドイツ語における宗教関連用語の意味が理解できる。 2.天理教教義のドイツ語訳をめぐる諸問題の概略を説明できる。		○		○		◎	
伝道ドイツ語2	演習	3・4	1	ドイツ語における一般的な宗教関連用語を学習しながら、とくに天理教教義のドイツ語訳をめぐる諸問題について確認し、翻訳・通訳の技能を向上させることを目的とする。天理教海外部発行のドイツ語出版物の講読をとおしてドイツ語による天理教教義の説明方法を学習し、通訳の訓練を行う。	1.基本的な天理教用語をドイツ語で表記できる。 2.基本的な天理教教義をドイツ語で説明できる。		○		○		◎	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(ドイツ語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ② ドイツ語が使われている国・地域のことば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③ ドイツ語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④ 異文化理解を踏まえたドイツ語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤ あらゆる分野でドイツ語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥ 国際的に通用する高度なドイツ語を駆使して日本と海外の橋渡し役になうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)											
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎ 達成のために特に重要 ○ 達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
ドイツ語で学ぶ日本文化	演習	3・4	1	ドイツ人との相互理解を促進するために、日本文化を紹介したドイツ語の文献資料や映像資料を教材にして、日本文化をドイツ語で説明するためのドイツ語運用能力を高め、ドイツ人に説明可能な日本文化に関する知識を習得する。	1.ドイツ人に説明するための日本文化に関する資料を収集できる。 2.日本文化をドイツ語で説明できる。	○				○	◎	
観光ドイツ語	演習	3・4	1	ドイツを観光する、あるいはドイツ人を日本で観光案内する時に必要な会話を身につけ、日本とドイツの文化と宗教的な背景を把握しながら、両国の代表的な観光地とその由来を知り、関連の単語と表現を学習する。	1.ドイツへ観光する時に必要なドイツ語が使える。 2.ドイツ人に日本の代表的な観光地を紹介し説明することができる。		○			○	◎	○
映像で学ぶドイツ語	演習	3・4	1	ドイツのドラマ、映画、ドキュメンタリー等によってドイツ語を学び、ドイツの社会・文化を映像から理解する。口語、日常生活で使われる言葉、方言等の教科書に載っていないドイツ語を学ぶ。	1.視聴したドイツのドラマや映画等の内容を説明できる。 2.口語や流行のドイツ語が理解できる。 3.ネイティブのドイツ語を聞き取ることができる。		○			○	◎	
時事ドイツ語	演習	3・4	1	定期刊行物、新聞、視聴覚教材などを通じてドイツ語における現代用語をさまざまな角度から習得し、現在のドイツの政治、経済、社会、文化を読み解くことを目的とする。	1.ドイツ語の政治・経済・社会関連用語の意味が理解できる。 2.現代ドイツにおける政治・経済・社会問題の概略を説明できる。		○			○	◎	
ドイツ語圏研究入門	講義	1	2	文献とデジタル情報からドイツの地理、社会、歴史、文化について学習する。また日本の社会・文化と比較しながら関心のあるテーマを見つけ、それを探究する。	1.研究に必要な方法と技術(文献・情報検索、文献講読、文章の書き方)を活用できる。 2.ドイツについて関心のあるテーマで自分なりに説明することができる。	◎	○	◎				
ドイツ語圏史	講義	2・3・4	2	ドイツ語圏の歴史を通史的に学び、ドイツ語圏研究の土台を養う。	1.ドイツ語圏の歴史的に重要な出来事について説明できる。 2.歴史は現代社会にどのような影響を及ぼしているのかを説明できる。	○	○	◎				
ドイツ社会文化論	講義	2・3・4	2	ドイツの社会・文化に関する基本的な情報をもとに現代ドイツが抱える諸問題を考察する。	1.ドイツ社会について政治・経済などの観点から説明することができる。 2.ドイツ文化について宗教、生活様式などの観点から説明することができる。	○	○	◎				
ドイツ言語文化論	講義	2・3・4	2	日常生活におけるドイツ人のさまざまな言語表現を具体的に取り上げ、日本語のそれと比較しながら、日独両国の言語コミュニケーションの文化について考察する。	1.ドイツ語の言語表現の特徴について説明できる。 2.日独の言語コミュニケーションの共通点と相違点を説明できる。	○	○	◎	○			
ドイツと日本	講義	2・3・4	2	ドイツと日本の関係を歴史的に概観し、現在の政治・経済関係や文化交流の側面から詳細に検討する。また国際社会における両国の立ち位置などにも焦点を当てて考察する。	1.ドイツと日本の二国間関係を歴史、政治、経済、文化交流の面から説明できる。 2.国際社会における立ち位置からドイツと日本の関係を説明できる。	◎	○	○				◎

外国語学科フランス語コース カリキュラムマップ(2025年度入学生)												
ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(フランス語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ② フランス語が使われている国・地域のことば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③ フランス語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④ 異文化理解を踏まえたフランス語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤ あらゆる分野でフランス語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥ 国際的に通用する高度なフランス語を駆使して日本と海外の橋渡し役をになうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)											
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎ 達成のために特に重要 ○ 達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
フランス語A(文法・読解)	演習	1	2	フランス語の基本的な構造など初級レベルの文法を学ぶ。練習問題などに取り組みながら、フランス語の仕組みに慣れていく。また、フランス語の文章読解からその規則を確認していく。	フランス語の基本的な文法および単語・表現を学習する。フランス語検定5級を目指す。	○	◎		○			
フランス語A(コミュニケーション)	演習	1	2	基本文法の習熟に応じたコミュニケーション力を養う。自己紹介や日常の簡単な挨拶など、フランス語でコミュニケーションを行う。	フランス語で自己紹介・他己紹介ができる。日常の簡単な挨拶ができる。	○	○		◎			
フランス語A(語彙・発音)	演習	1	1	フランス語には、スペルと発音に一定の規則性がありその法則を学ぶ。フランス語の母音や子音を体系的に学び、フランス語の発音に慣れ、基本となる単語・表現を増やしていく。	フランス語のスペルと発音の規則を学ぶ。フランス語が通じる程度に発音ができる。フランス語検定5級に必要な基本単語500語を習得する。	○	◎		○			
フランス語A(リスニング)	演習	1	1	フランス語の発音に慣れ親しむ。簡単な表現や文章を音を通して学ぶ。フランス語のイントネーションやアクセント、リズムを耳で確認することにより、聞き取りの強化を目指す。	フランス語の単語や表現を聞いて理解することを目指す。日常の挨拶や会話など簡単な文章の聞き取りができるようになる。	○	◎		◎			
フランス語B(文法・読解)	演習	1	2	フランス語の基本的な構造など初級レベルの文法を学ぶ。練習問題などに取り組みながら、フランス語の仕組みに慣れていく。また、フランス語の文章読解からその規則を確認していく。	フランス語の基本的な文法および単語・表現を学習する。フランス語検定4級を目指す。	○	◎		○			
フランス語B(コミュニケーション)	演習	1	2	基本文法の習熟に応じたコミュニケーション力を養う。自己紹介や日常の簡単な挨拶など、フランス語でコミュニケーションを行う。さらにそのなかに見られる社会的・文化的特徴に気づき異文化理解を深める。	フランス語で自己紹介・他己紹介ができる。日常によく使われる挨拶ができる。一日の出来事を説明することができる。	○	○		◎			
フランス語B(語彙・発音)	演習	1	1	フランス語には、スペルと発音に一定の規則性がありその法則を学ぶ。フランス語の母音や子音を体系的に学び、フランス語の発音に慣れ、基本となる単語・表現を増やしていく。	フランス語のスペルと発音の規則を学ぶ。フランス語が通じる程度に発音ができる。フランス語検定4級に必要な基本単語累計800語を習得する。	○	◎		○			
フランス語B(リスニング)	演習	1	1	フランス語の発音に慣れ親しむ。簡単な表現や文章を音を通して学ぶ。フランス語のイントネーションやアクセント、リズムを耳で確認することにより、聞き取りの能力を高める。	フランス語の文法および単語・表現を学習しながら簡単な会話をこなせるようになる。簡単な読解・聴解をこなせるようになる。	○	◎		◎			
フランス語C(文法・読解)	演習	2	2	既習の基本的文法事項を確認しつつ、さらに文法の知識を深めていく。さまざまな文章の講読や練習問題を通じて、習得した文法規則の確認を行っていく。	フランス語の基本的文法規則を習熟する。フランス語検定3級を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1を目指す。累計1500語の語彙習得を目指す。	○	◎		○			
フランス語C(コミュニケーション)	演習	2	1	さまざまなコミュニケーションの場に触れつつ、フランス語の運用能力を高めていく。音声や映像を通じて、あるいはクラスのなかで寸劇をしたり会話をしたりしながら、フランス語の発音やリスニングに慣れ親しんでいく。	自分のことやさまざまな出来事を口頭で説明することができる。フランス語検定3級を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1を目指す。	○	○		◎			
フランス語C(作文)	演習	2	1	インプットからアウトプットへのステップとして、1年次で習得したフランス語の文法や語彙を使い、自分のことが発信できるようにフランス語の文章の作成に取り組んでいく。	自分のことやさまざまな出来事をフランス語で書くことができる。フランス語検定3級を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1を目指す。	○	◎		◎			
フランス語D(文法・読解)	演習	2	2	既習の基本的文法事項を確認しつつ、さらに文法の知識を深めていく。さまざまな文章の講読や練習問題を通じて、習得した文法規則の確認を行っていく。	フランス語の基本的文法規則を習熟する。フランス語検定準2級を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2を目指す。累計2000語の語彙習得を目指す。	○	◎		○			
フランス語D(コミュニケーション)	演習	2	1	さまざまなコミュニケーションの場に触れつつ、フランス語の運用能力を高めていく。音声や映像を通じて、あるいはクラスのなかで寸劇をしたり会話をしたりしながら、フランス語の発音やリスニングに慣れ親しんでいく。	自分のことやさまざまな出来事を口頭で説明することができる。フランス語検定準2級を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2を目指す。	○	○		◎			

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(フランス語)の学位を授与します。 ①本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ②フランス語が使われている国・地域のことば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③フランス語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④異文化理解を踏まえたフランス語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤あらゆる分野でフランス語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥国際的に通用する高度なフランス語を駆使して日本と海外の橋渡し役をになうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)											
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
フランス語D(作文)	演習	2	1	インプットからアウトプットへのステップとして、1年次で習得したフランス語の文法や語彙を使い、自分のことが発信できるようにフランス語の文章の作成に取り組んでいく。	自分のことやさまざまな出来事をフランス語で書くことができる。フランス語検定準2級を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2を目指す。	○	◎		◎			
フランス語E(総合)	演習	3	1	これまで習得した基本的文法の主要な事項を確認しつつ、さまざまな文章を通じて、フランス語全体の理解をより深めていく。さらに中級程度の文法を学んでいく。	聞く・話す・読む・書くの4技能のバランスを持って理解できるようになる。フランス語検定2級を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1を目指す。累計3000語の語彙習得を目指す。	○	◎		○			
フランス語E(読解)	演習	3	1	さまざまな文章(報道、小説、詩、手紙等)を通じて、フランス語の読解力を高めるとともに、語彙や表現を増やしていく。	さまざまな文章を読んで全般的な理解ができるようになる。フランス語検定2級を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1を目指す。	○	◎		○			
フランス語E(コミュニケーション)	演習	3	1	さまざまなコミュニケーションの場に触れつつ、フランス語の運用能力をさらに高めていく。音声や映像を通じて、あるいはクラスのなかで寸劇をしながら、フランス語のより自然な運用能力を身につける。	日常のさまざまな局面でのコミュニケーションを理解する。フランス語検定2級を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1を目指す。	○	○		◎			
フランス語E(作文)	演習	3	1	短文から複文へとより高度な文章が書けるように、語彙や表現、構文などのレパートリーを増やしていく。また、実際にフランス語話者とのやりとりを通じて、実用的なフランス語文を学ぶ。	自分のことやさまざまな出来事を、より高度で複雑なフランス語で書くことができる。フランス語検定2級を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1を目指す。	○	◎		◎			
フランス語F(総合)	演習	3	1	これまで習得した基本的文法の主要な事項を確認しつつ、さまざまな文章を通じて、フランス語全体の理解をより深めていく。さらに中級程度の文法を学んでいく。	聞く・話す・読む・書くの4技能のバランスを持って理解できるようになる。フランス語検定準1級を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2を目指す。累計5000語の語彙習得を目指す。	○	◎		○			
フランス語F(読解)	演習	3	1	さまざまな文章(報道、小説、詩、手紙等)を通じて、フランス語の読解力を高めるとともに、語彙や表現を増やしていく。	新聞記事などを読んで全般的な理解ができるようになる。フランス語検定準1級を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2を目指す。	○	◎		○			
フランス語F(コミュニケーション)	演習	3	1	さまざまなコミュニケーションの場に触れつつ、フランス語の運用能力をさらに高めていく。音声や映像を通じて、あるいはクラスのなかで寸劇をしながら、フランス語のより自然な運用能力を身につける。	日常のさまざまな局面でのコミュニケーションを理解する。フランス語検定準1級を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2を目指す。	○	○		◎			
フランス語F(作文)	演習	3	1	短文から複文へとより高度な文章が書けるように、語彙や表現、構文などのレパートリーを増やしていく。また、実際にフランス語話者とのやりとりを通じて、実用的なフランス語文を学ぶ。	自身のことやさまざまな出来事を、より高度で複雑なフランス語で書くことができる。フランス語検定準1級を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2を目指す。	○	◎		◎			
フランス語G(総合)	演習	4	1	聞く・話す・読む・書くこれまで培ってきたフランス語の総合的な運用能力をさらに高めていく。さまざまな文章や音声に触れることによって、これまで習得した知識を再確認していく。	聞く・話す・読む・書くの4技能をより一層深め、運用能力を高めていく。フランス語検定1級を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルC1を目指す。累計1万語の語彙習得を目指す。	○	◎		◎			
フランス語H(総合)	演習	4	1	聞く・話す・読む・書くこれまで培ってきたフランス語の総合的な運用能力をさらに高めていく。さまざまな文章や音声に触れることによって、これまで習得した知識を再確認していく。	聞く・話す・読む・書くの4技能をより一層深め、運用能力を高めていく。フランス語検定1級を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルC1を目指す。累計1万語以上の語彙習得を目指す。	○	◎		◎			
伝道フランス語1	演習	3・4	1	天理教の基本教理を確認した上で、教語や教祖の言説がどのように翻訳されているかを検討し、教理を正しく伝えるための知識と語学力を習得する。	1. 天理教の基本的教語がどのように訳されているか理解できる。 2. 教語翻訳の背景にあることばの意味について説明できる。		○		○		◎	
伝道フランス語2	演習	3・4	1	天理教の教語や教祖の言説がどのように翻訳されているかを検討し、教理を正しく伝えるための知識と語学力を習得する。また、翻訳上の課題などについても考察する。	1. 天理教の基本的教語がどのように訳されているか理解できる。 2. 教語翻訳の背景にあることばの意味について説明できる。 3. 習得したフランス語の教語を手がかりに簡単な天理教の教理説明ができる。		○		○		◎	
フランス語で学ぶ日本文化	演習	3・4	1	これまで習得したフランス語の文法事項を活用し、日本文化の紹介に必要な表現を学ぶ。さらにフランス語話者に対して、正しく日本の文化・歴史を発信するための基礎知識を養う。	1. フランス語で書かれた日本に関する紹介文に触れることでさまざまな表現を運用できる。 2. 日本の文化や歴史などを、簡単な表現を用いてフランス語で説明できる。	○				○	◎	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(フランス語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ② フランス語が使われている国・地域のことば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③ フランス語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④ 異文化理解を踏まえたフランス語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤ あらゆる分野でフランス語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥ 国際的に通用する高度なフランス語を駆使して日本と海外の橋渡し役をになうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)											
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎ 達成のために特に重要 ○ 達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
観光フランス語		演習	3・4	1	フランス語で観光するのに必要な表現を学ぶ。日本を観光するフランス語話者に対する観光案内のための表現を学ぶ。	1. 観光に必要なフランス語表現を使うことができる。 2. 天理や奈良など、近隣の紹介を簡単なフランス語を使って案内できる。		○		○	◎	○
通訳フランス語		演習	4	1	文法や語彙・表現力、リスニング力、関連知識などが求められる総合的で創造的なコミュニケーション能力を養っていく。多様なジャンルの内容に関する日仏双方の言語に逐次通訳する練習を重ねる。	1. 通訳の基本技術を学習し、状況に応じた簡単な通訳ができる。 2. 話言葉のスピードに慣れる。	○	○		○	◎	○
翻訳フランス語		演習	4	1	文法や語彙・表現力、リスニング力、関連知識などが求められる総合的で創造的なコミュニケーション能力を養っていく。多様なジャンルの内容の日仏双方の言語に翻訳する練習を重ね、表現や意味の変化などに着目していく。	1. 翻訳の基本技術を学習し、状況に応じた簡単な翻訳文を作成できる。 2. 日仏両言語の意味変換について説明できる。	○	○		○	◎	○
フランス語圏研究入門		講義	1	2	フランスを中心にその周辺国、そして歴史的に関係の深いアフリカ諸国の社会や文化、宗教などを概観していく。	フランスやフランス語圏の社会、人々の暮らし、文化などに関することを理解し、説明できる。	◎		◎			○
フランス語圏史		講義	2・3・4	2	フランスからアフリカに至る広大で多様なフランス語圏の関係の歴史を辿っていく。	1. フランスと他のフランス語圏、とくにアフリカの国々との関係史が理解できる。 2. 現代の国際事情に対する視野を広め、その背景を説明できる。	○		◎			○
フランス社会文化論		講義	2・3・4	2	政治や経済、文化、宗教など、現代フランスのさまざまな側面を概観し、日本との違いを意識しながら、フランスの社会文化の知識を深めていく。	1. 現代フランスの諸相を知る。 2. 日本社会と比較することで多文化社会の感覚を身につける。	○	○	◎			
フランス言語文化論		講義	2・3・4	2	フランス語の言語文化を表象する主要文学作品を紹介するとともに、文学作品の解釈などを通して、フランス社会の理解を深める。	フランス文学を通じてフランス語の言語文化を理解し、説明できる。	○	○	◎	○		
フランスと日本		講義	2・3・4	2	フランスと日本の関わりの歴史を振り返るとともに、現代社会におけるフランスでの日本文化の浸透とその変容について考察する。	1. フランスと日本の交流史に関する知識を得る。 2. 日本におけるフランス文化、またフランスにおける日本文化の広がりについて説明できる。	◎	○	○		○	◎

外国語学科ロシア語コース カリキュラムマップ(2025年度入学生)

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(ロシア語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ② ロシア語が使われている国・地域のことば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③ ロシア語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④ 異文化理解を踏まえたロシア語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤ あらゆる分野でロシア語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥ 国際的に通用する高度なロシア語を駆使して日本と海外の橋渡し役にになうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)													
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎ 達成のために特に重要 ○ 達成のために重要							
							①	②	③	④	⑤	⑥		
ロシア語A(文法)	演習	1	2	ロシア語の初級レベルの文法を学ぶ。ロシア語のアルファベットと基本的な構造について理解する。	ロシア語の初級文法の学習を中心に進め、それらの用法を習得する。また習得した文法が使われた短いテキストの読解を目指す。	○	◎		○					
ロシア語A(会話)	演習	1	2	ロシア語の初級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	ロシア語の単語・表現を学習しながら基礎的な日常会話力を身につける。	○	○		◎					
ロシア語A(リスニング)	演習	1	1	映像・音声教材を用いて、日常会話で使われる基本表現の聞き取り練習を反復する。	ロシア語運用能力の基礎となるリスニング力を身につける。	○	○		◎					
ロシア語A(語彙・発音)	演習	1	1	ロシア語運用能力の基礎となる語彙力および発音を反復練習する。	映像・音声教材を用いて、日常会話で使われる基本表現を身につける。基本語彙300語の習得を目指す。	○	◎		◎					
ロシア語B(文法)	演習	1	2	ロシア語の初級レベルの文法を学ぶ。	ロシア語の初級文法の学習を進め、それらの用法を習得する。	○	◎		○					
ロシア語B(会話)	演習	1	2	ロシア語の初級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	ロシア語の単語・表現を学習しながら基礎的な会話力を身につける。	○	○		◎					
ロシア語B(リスニング)	演習	1	1	映像・音声教材を用いて、日常会話で使われる基本表現の聞き取り練習を反復する。	ロシア語運用能力の基礎となるリスニング力を身につける。	○	○		◎					
ロシア語B(語彙・発音)	演習	1	1	ロシア語運用能力の基礎となる語彙力および発音を反復練習する。	映像・音声教材を用いて、日常会話で使われる基本表現を身につける。基本語彙700語の習得を目指す。	○	◎		◎					
ロシア語C(文法)	演習	2	1	ロシア語の中級レベルの文法を習得する。かつ習得した文法が用いられるテキストの読解力の錬成をはかる。	ロシア語の中級文法の学習を進め、それらの用法を習得する。ロシア語能力検定4級合格を目指す。	○	◎		○					
ロシア語C(講読)	演習	2	1	ロシア語の中級レベルの文法を用いたテキスト講読の錬成をはかる。	ロシア語の既習の単語・表現を用いて中級レベルの講読能力を身につける。	○	◎		○					
ロシア語C(会話1)	演習	2	1	ロシア語の中級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	ロシア語の単語・表現を学習しながら中級レベルの会話力を身につける。	○	○		◎					
ロシア語C(会話2)	演習	2	1	授業ごとにテーマを設けて、ロシア語の中級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	設定したテーマで、ロシア語の単語・表現を学習しながら中級レベルの会話力を身につける。	○	○		◎					
ロシア語D(文法)	演習	2	1	ロシア語の中級レベルの文法を習得する。かつ習得した文法が用いられるテキストの読解力の錬成をはかる。	ロシア語の中級文法の学習を進め、それらの用法を習得する。ロシア語能力検定3級のレベルを目指す。	○	◎		○					

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(ロシア語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ② ロシア語が使われている国・地域のことば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③ ロシア語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④ 異文化理解を踏まえたロシア語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤ あらゆる分野でロシア語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥ 国際的に通用する高度なロシア語を駆使して日本と海外の橋渡し役をになうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)											
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
ロシア語D(講読)	演習	2	1	ロシア語の中級レベルの文法を用いたテキスト講読の錬成をはかる。	ロシア語の既習の単語・表現を用いて中級レベルの講読能力を身につける。ロシア語能力検定3級のレベルを目指す。	○	◎		○			
ロシア語D(会話1)	演習	2	1	ロシア語の中級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	ロシア語の単語・表現を学習しながら中級レベルの会話力を身につける。	○	○		◎			
ロシア語D(会話2)	演習	2	1	授業ごとにテーマを設けて、ロシア語の中級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	設定したテーマで、ロシア語の単語・表現を学習しながら中級レベルの会話力を身につける。	○	○		◎			
ロシア語E(講読)	演習	3	1	ロシア語の既習の文法、読解、語彙の能力を用いて、上級レベルの読解力の錬成をはかる。	ロシア語の上級レベルの読解力を身につける。ロシア語能力検定2級のレベルを目指す。	○	◎		○			
ロシア語E(翻訳)	演習	3	1	基本的な翻訳技術を学修し、ロシア語の既習の文法、語彙、読解能力を総合的に用いて、より高度な内容のテキストを翻訳し、語学力の錬成をはかる。	さまざまな分野のテキストを取り上げ、ロシア語の上級レベルの翻訳技術を身につける。ロシア語能力検定2級のレベルを目指す。	○	◎		○			
ロシア語E(会話)	演習	3	1	ロシア語の上級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	ロシア語の単語・表現を学習しながら上級レベルの会話力を身につける。	○	○		◎			
ロシア語E(作文)	演習	3	1	ロシア語の上級レベルの文法を用いた作文能力の錬成をはかる。	ロシア語の既習の単語・表現を用いて上級レベルの作文力を身につける。ロシア語能力検定2級のレベルを目指す。	○	○		◎			
ロシア語F(講読)	演習	3	1	ロシア語の既習の文法、読解、語彙の能力を用いて、上級レベルの読解力の錬成をはかる。	ロシア語の上級レベルの読解力を身につける。ロシア語能力検定2級合格を目指す。	○	◎		○			
ロシア語F(翻訳)	演習	3	1	さらに進んだ翻訳技術を学修し、ロシア語の既習の文法、語彙、読解能力を総合的に用いて、より高度な内容のテキストを翻訳し、語学力の錬成をはかる。	様々な分野のテキストを取り上げ、ロシア語の上級レベルの翻訳技術を身につける。ロシア語能力検定2級合格を目指す。	○	◎		○			
ロシア語F(会話)	演習	3	1	ロシア語の上級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	ロシア語の単語・表現を学習しながら上級レベルの会話力を身につける。	○	○		◎			
ロシア語F(作文)	演習	3	1	ロシア語の上級レベルの文法を用いた作文能力の錬成をはかる。	ロシア語の既習の単語・表現を用いて上級レベルの作文力を身につける。ロシア語能力検定2級合格を目指す。	○	○		◎			
ロシア語G(総合)	演習	4	1	ロシア語の上級レベルの実践的な語学力の錬成をはかる。	ロシア語の既習の文法、語彙、読解、会話、リスニングおよびコミュニケーションの能力を駆使して、上級レベルの実践的な語学力を身につける。	○	◎		○	◎		
ロシア語H(総合)	演習	4	1	ロシア語の上級レベルの実践的な語学力の錬成をはかる。	ロシア語の既習の文法、語彙、読解、会話、リスニングおよびコミュニケーションの能力を駆使して、上級レベルの実践的な語学力を身につける。	○	◎		○	◎		
伝道ロシア語1	演習	3・4	1	ロシア語における一般的な宗教関連用語を学習しながら、とくに天理教教義のロシア語訳をめぐる諸問題について確認し、翻訳・通訳の技能を向上させることを目的とする。まずロシアにおける天理教伝道史を概観する。また、天理教海外部発行の平易なロシア語出版物を講読し、ロシア語訳をめぐる諸問題を検討する。	1.ロシア語における宗教関連用語の意味が理解できる。 2.天理教教義のロシア語訳をめぐる諸問題の概略を説明できる。		○		○		◎	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(ロシア語)の学位を授与します。 ①本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ②ロシア語が使われている国・地域のことば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③ロシア語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④異文化理解を踏まえたロシア語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤あらゆる分野でロシア語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥国際的に通用する高度なロシア語を駆使して日本と海外の橋渡し役をになうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)											
	科 目 名	授業形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
伝道ロシア語2	演習	3・4	1	ロシア語における一般的な宗教関連用語を学習しながら、とくに天理教教義のロシア語訳をめぐる諸問題について確認し、翻訳・通訳の技能を向上させることを目的とする。天理教海外発行のロシア語出版物の講義をとおしてロシア語による天理教教義の説明方法を学習し、通訳の訓練を行う。	1.基本的な天理教用語をロシア語で表記できる。 2.基本的な天理教教義をロシア語で説明できる。		○		○		◎	
ロシア語で学ぶ日本文化	演習	3・4	1	ロシア語話者との理解を促進するために、日本文化を紹介したロシア語の文献資料や映像資料を教材にして、日本文化をロシア語で説明するためのロシア語運用能力を高め、ロシア語話者に説明可能な日本文化に関する知識を習得する。	1.ロシア語話者に説明するための日本文化に関する資料を収集できる。 2.日本文化をロシア語で説明できる。	○			○		◎	
観光ロシア語	演習	3・4	1	ロシアを観光する、あるいはロシア人を日本で観光案内する時に必要な会話を身につけ、日本とロシアの文化と宗教的な背景を把握しながら、両国の代表的な観光地とその由来を知り、関連の単語と表現を学習する。	1.ロシアへ観光する時に必要なロシア語が使える。 2.ロシア人に日本の代表的な観光地を紹介し説明することができる。		○		○	◎	○	
映像で学ぶロシア語	演習	3・4	1	ロシアのドラマ、映画、ドキュメンタリー等によってロシア語を学び、ロシアの社会・文化を映像から理解する。口語、日常生活で使われる言葉、方言等の教科書に載っていないロシア語を学ぶ。	1.視聴したロシアのドラマや映画等の内容を説明できる。 2.口語や流行のロシア語が理解できる。 3.ネイティブのロシア語を聞き取ることができる。		○		○	◎		
時事ロシア語	演習	3・4	1	定期刊行物、新聞、視聴覚教材などを通じてロシア語における現代用語をさまざまな角度から習得し、現在のロシアの政治、経済、社会、文化を読み解くことを目的とする。	1.ロシア語の政治・経済・社会関連用語の意味が理解できる。 2.現代ロシアにおける政治・経済・社会問題の概略を説明できる。		○		○	◎		
ロシア研究入門	講義	1	2	文献とデジタル情報からロシアや周辺諸国の地理、社会、歴史、文化について学習する。また日本の社会・文化と比較しながら関心のあるテーマを見つけ、それを探究する。	1.研究に必要な方法と技術(文献・情報検索、文献講読、文章の書き方)を活用できる。 2.ロシアや周辺諸国について関心のあるテーマで自分なりに説明することができる。	◎	○	◎				
ロシア史	講義	2・3・4	2	ロシアや周辺諸国の歴史を通史的に学び、ロシア・スラヴ研究の土台を養う。	1.ロシアやスラヴ諸国の歴史的に重要な出来事について説明できる。 2.歴史は現代社会にどのような影響を及ぼしているのかを説明できる。	○	○	◎				
ロシア社会文化論	講義	2・3・4	2	ロシアの社会・文化に関する基本的な情報をもとに現代ロシアが抱える諸問題を考察する。	1.ロシア社会について政治・経済などの観点から説明することができる。 2.ロシア文化について宗教、生活様式などの観点から説明することができる。	○	○	◎				
ロシア言語文化論	講義	2・3・4	2	日常生活におけるロシア人のさまざまな言語表現を具体的に取り上げ、日本語のそれと比較しながら、日本とロシアの言語コミュニケーションの文化について考察する。	1.ロシア語の言語表現の特徴について説明できる。 2.日本とロシアの言語コミュニケーションの共通点と相違点を説明できる。	○	○	◎	○			
ロシアと日本	講義	2・3・4	2	ロシアと日本の関係を歴史的に概観し、現在の政治・経済関係や文化交流の側面から詳細に検討する。また国際社会における両国の立ち位置などにも焦点を当てて考察する。	1.ロシアと日本の二国間関係を歴史、政治、経済、文化交流の面から説明できる。 2.国際社会における立ち位置からロシアと日本の関係を説明できる。	◎	○	○			◎	

外国語学科スペイン語コース カリキュラムマップ(2025年度入学生)

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(スペイン語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ② スペイン語が使われている国・地域のことば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③ スペイン語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④ 異文化理解を踏まえたスペイン語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤ あらゆる分野でスペイン語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥ 国際的に通用する高度なスペイン語を駆使して日本と海外の橋渡し役になうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)											
	科 目 名	授業形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎ 達成のために特に重要 ○ 達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
	スペイン語A(文法)	演習	1	2	スペイン語の運用能力を高めていくために必要な基礎的文法を学ぶ。	スペイン語の文法および単語・表現を学習する。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1.1を目指す。	○	◎		○		
	スペイン語A(コミュニケーション・表現)	演習	1	3	スペイン語の基礎的な文型および会話表現を学習する。	スペイン語の文法および単語・表現を学習しながら簡単な会話ができるようになる。簡単な読解・聴解ができるようになる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1.1を目指す。	○	○		◎		
	スペイン語A(読解・聴解)	演習	1	1	スペイン語運用能力の基礎となる基本文法の習熟に対応したコミュニケーション力の養成をはかるとともに、スペイン語圏地域の社会的・文化的特徴を理解し、総合的なスペイン語力の強化を目指す。	スペイン語の文法および単語・表現を学習しながら簡単な読解・聴解ができるようになる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1.1を目指す。	○	◎		○		
スペイン語B(文法)	演習	1	2	スペイン語の運用能力を高めていくために必要な基礎的文法を学ぶ。	スペイン語の文法および単語・表現を学習する。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1.2を目指す。	○	◎		○			
スペイン語B(コミュニケーション・表現)	演習	1	3	スペイン語の基礎的な文型および会話表現を学習する。	スペイン語の文法および単語・表現を学習しながら簡単な会話ができるようになる。簡単な読解・聴解ができるようになる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1.2を目指す。	○	○		◎			
スペイン語B(読解・聴解)	演習	1	1	スペイン語運用能力の基礎となる基本文法の習熟に対応したコミュニケーション力の養成をはかるとともに、スペイン語圏地域の社会的・文化的特徴を理解し、総合的なスペイン語力の強化を目指す。	スペイン語の文法および単語・表現を学習しながら簡単な読解・聴解ができるようになる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1.2を目指す。	○	◎		○			
スペイン語C(文法)	演習	2	1	既習の文法事項を再確認しつつ、文章読解や聞き取り、作文などの練習問題を通して、中級文法の習得と運用能力のさらなる向上に努める。	特定のテーマについて書かれた解説文を教材に、スペイン語圏に関するさまざまな知識を習得する。またこれまでに学んだ構文・文法事項を定着させる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2.1を目指す。	○	◎		○			
スペイン語C(コミュニケーション・表現)	演習	2	2	1年次で習得したコミュニケーションスキルを定着させる。実際のスペイン語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界各地で話されているスペイン語や、それぞれの国・地域の状況について、現場の音声映像を通じて習得・理解できるようになる。	会話を中心に進め、1年次に学習した文法事項の確認と練習も行う。また、語彙や表現力の向上を目指し、発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2.1を目指す。	○	○		◎			
スペイン語C(読解・聴解)	演習	2	1	1年次で習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すところなく駆使して、スペイン語の長文を聞き取り読みこなす力を身につけていくことを目指す。	スペイン語の読解力を養うとともに、視聴覚資料を利用してスペイン語圏の歴史や地理に対する理解を深め、スペイン語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2.1を目指す。	○	◎		○			
スペイン語D(文法)	演習	2	1	既習の文法事項を再確認しつつ、文章読解や聞き取り、作文などの練習問題を通して、中級文法の習得と運用能力のさらなる向上に努める。	特定のテーマについて書かれた解説文を教材に、スペイン語圏に関するさまざまな知識を習得する。またこれまでに学んだ構文・文法事項を定着させる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2.2を目指す。	○	◎		○			
スペイン語D(コミュニケーション・表現)	演習	2	2	これまで習得したコミュニケーションスキルを定着させる。実際のスペイン語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界各地で話されているスペイン語や、それぞれの国・地域の状況について、現場の音声映像を通じて習得・理解できるようになる。	会話を中心に進め、これまで学習した文法事項の確認と練習を行う。また、語彙や表現力の向上を目指し、発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2.2を目指す。	○	○		◎			
スペイン語D(読解・聴解)	演習	2	1	これまで習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すところなく駆使して、スペイン語の長文を聞き取り読みこなす力を身につけていくことを目指す。	スペイン語の読解力を養うとともに、視聴覚資料を利用してスペイン語圏の歴史や地理に対する理解を深め、スペイン語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2.2を目指す。	○	◎		○			
スペイン語E(文法・理解)	演習	3	2	これまで習得した中級文法の主要な事項(分詞構文/点過去線過去・語法等)を総合復習(ドリル形式)で概括・再確認し、そのうえでさらに進化した知識を習得しスペイン語運用力を高める。中・上級程度の講読からも文法項目を確認する。	スペイン語Dまでで中級文法を学習してきた。本授業科目では、さらに中・上級レベルの文法を身につける。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.1を目指す。	○	◎		○			

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(スペイン語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ② スペイン語が使われている国・地域のこば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③ スペイン語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④ 異文化理解を踏まえたスペイン語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤ あらゆる分野でスペイン語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥ 国際的に通用する高度なスペイン語を駆使して日本と海外の橋渡し役をになうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)					
	科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標 ディプロマ・ポリシーの番号 ◎ 達成のために特に重要 ○ 達成のために重要
						① ② ③ ④ ⑤ ⑥
スペイン語E(コミュニケーション・表現)	演習	3	2	1・2年次で習得したコミュニケーションスキルを定着させる。実際のスペイン語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界各地で話されているスペイン語や、それぞれの国・地域の状況について、現場の音声映像を通じて習得・理解できるようになる。	会話を中心に進め、1・2年次に学習した文法事項の確認と練習を行う。視聴覚資料を利用してスペイン語圏の歴史や地理に対する理解を深め、スペイン語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.1を目指す。	○ ○ ◎
スペイン語F(文法・理解)	演習	3	2	これまで習得した中級文法の主要な事項(分詞構文/点過去線過去・語法等)を総合復習で概括・再確認し、そのうえでさらに進化した知識を習得しスペイン語運用力を高める。中・上級程度の講読からも文法項目を確認する。	これまで中級文法を学習してきた。本授業科目では、さらに中・上級レベルの文法を身につける。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.2を目指す。	○ ◎ ○
スペイン語F(コミュニケーション・表現)	演習	3	2	これまで習得したコミュニケーションスキルを定着させる。実際のスペイン語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界各地で話されているスペイン語や、それぞれの国・地域の状況について、現場の音声映像を通じて習得・理解できるようになる。	会話を中心に進め、これまで学習した文法事項の確認と練習を行う。視聴覚資料を利用してスペイン語圏の歴史や地理に対する理解を深め、スペイン語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.2を目指す。	○ ○ ◎
スペイン語G(総合)	演習	4	1	これまで習得した中級文法の主要な事項(分詞構文/点過去線過去・語法等)を総合復習で概括・再確認し、そのうえでさらに進化した知識を習得しスペイン語運用力を高める。上級程度の講読からも文法項目を確認する。また、これまで習得したコミュニケーションスキルを定着させる。	本授業科目では今まで学習した文法事項の確認と練習を行い、上級文法へと進展する。また、スペイン語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2.1を目指す。	○ ◎ ◎
スペイン語H(総合)	演習	4	1	これまで習得した中級文法の主要な事項(分詞構文/点過去線過去・語法等)を総合復習で概括・再確認し、そのうえでさらに進化した知識を習得しスペイン語運用力を高める。上級程度の講読からも文法項目を確認する。また、これまで習得したコミュニケーションスキルを定着させる。	本授業科目では今まで学習した文法事項の確認と練習を行い、上級文法へと進展する。また、スペイン語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2.2を目指す。	○ ◎ ◎
伝道スペイン語1	演習	2・3・4	1	天理教教理を体系的に理解したうえで、スペイン語に訳された教義書をテキストに用いて、基本的な教語や表現を学ぶ。またスペイン語圏における宗教文化の特質や天理教伝道の歴史や現状を理解する。	スペイン語の基本的な教語や表現を習得する。また、スペイン語圏における宗教文化の特質や天理教伝道の歴史を踏まえ、現代のさまざまな問題を考察できるようになる。	○ ○ ◎
伝道スペイン語2	演習	2・3・4	1	天理教教理を体系的に理解したうえで、スペイン語のパンフレットをテキストに用いて、より専門的な教語や表現を学ぶ。スペイン語話者に対して教理を正しく伝えるための知識と語学力を習得する。	スペイン語で正しく天理教教義を伝えるために必要な言語運用能力を身につける。また、スペイン語圏における宗教文化の特質や天理教伝道の歴史や現状を理解し、さまざまな問題を考察できるようになる。	○ ○ ◎
スペイン語で学ぶ日本文化	演習	2・3・4	1	これまで習得したスペイン語の文法事項を利用し、日本文化紹介に必要な表現を学ぶ。さらにスペイン語母語話者をターゲットに正しく日本の文化・歴史を発信できるための基礎知識を養う。	スペイン語を使って、日本の文化・歴史を正しく紹介、説明できるようになる。	○ ○ ◎
観光スペイン語	演習	2・3・4	1	スペイン語圏や日本国内で観光地を案内する際に求められる基本的知識と実用的なスペイン語を学ぶ。観光地のほか、空港やホテル、ショッピング等の場面を想定した実践的な演習を行う。	観光の分野で必要とされるスペイン語の語彙や表現を学び、想定される場面でそれらを活用できる能力を身につける。日本とスペイン語圏の観光地に関する知識を身につけ、基本情報をスペイン語および日本語で説明できるようになる。	○ ◎ ○
時事スペイン語	演習	2・3・4	1	これまでに蓄積されたスペイン語知識を用いて、各種メディア上に流通する時事的文章に特化した講読・翻訳演習を行う。	時事的文章の正確な翻訳に欠かせないのはコンテキストがじゅうぶんに反映された訳語選択や文体構築である。この科目ではマスメディア上でじゅうぶんにプロとして通用する記事翻訳力の養成を目指す。	○ ◎ ○
映像で学ぶスペイン語	演習	3・4	1	視聴覚資料を通して、スペイン語の語彙力・表現力・理解力を高める。	視聴覚資料を通じて、現地メディアより情報収集および発信できるようになる。	○ ◎ ◎
翻訳スペイン語	演習	3・4	1	翻訳についての基礎知識を学び、これまでに習得したスペイン語力を土台にさまざまなテーマの翻訳演習を行う。スペイン語ならびに日本語の語彙力や表現力を高め、専門的なスキルを身につける。	さまざまな翻訳演習を通して、各分野の語彙力や表現力を身につける。スペイン語と日本語の文の構造の違いを意識しながら、中級レベルの翻訳ができるようになる。	○ ◎ ○
通訳スペイン語	演習	3・4	1	通訳についての基礎知識を学び、これまでに習得したスペイン語力を土台にさまざまなテーマの通訳演習を行う。スペイン語ならびに日本語の語彙力や表現力を高め、専門的なスキルを身につける。	さまざまな通訳演習を通して、各分野の語彙力や表現力を身につける。スペイン語と日本語の文の構造の違いを意識しながら、中級レベルの通訳ができるようになる。	○ ◎ ○

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(スペイン語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ② スペイン語が使われている国・地域のことば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③ スペイン語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④ 異文化理解を踏まえたスペイン語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤ あらゆる分野でスペイン語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥ 国際的に通用する高度なスペイン語を駆使して日本と海外の橋渡し役をになうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)											
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎ 達成のために特に重要 ○ 達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
スペイン語圏研究入門	講義	1	2	スペイン語圏の地理と歴史を学ぶとともに、スペインおよびラテンアメリカ地域の社会的・経済的・文化的意味を確認する。	スペイン語はどのような言語であり、スペイン語圏はどのような文化地域であるのかを学ぶ。英語や他のヨーロッパ言語との比較を通してラテン言語の特徴を理解し、その背景にある文化的・歴史的意味合いをも理解できるようになる。	◎		◎			○	
スペイン語圏史1	講義	2・3・4	2	各時代・地域の特徴的な歴史事象に焦点を当てながら、古代から現代に至るスペインの通史を俯瞰する。また、さまざまなトピックを随時取り上げてその歴史的背景をさぐり考察する。	古代から現代に至るスペインの通史を理解する。また現代の諸問題について歴史的な観点から自ら分析し、理解できるようになる。	◎		◎			○	
スペイン語圏史2	講義	2・3・4	2	各時代・地域の特徴的な歴史事象に焦点を当てながら、古代から現代に至るラテンアメリカの通史を俯瞰する。また、さまざまなトピックを随時取り上げてその歴史的背景をさぐり考察する。	古代から現代に至るラテンアメリカの通史を理解する。また現代の諸問題について歴史的な観点から自ら分析し、理解できるようになる。	◎		◎			○	
スペイン語学1	講義	2・3・4	2	スペイン語を共時的、通時的に学び、系統と成り立ちについて基本的な知識を身につける。スペイン国内で話されているさまざまな言語について概観する。	スペイン語史を通じて、スペイン語の音韻面、形態面、統語・意味面、語彙などの移り変わりを学ぶ。スペインの各地域のことばについて、音声的、統語的、意味的、形態的な視点から理解できるようになる。	○		◎		○		
スペイン語学2	講義	2・3・4	2	スペイン語を共時的、通時的に学び、系統と成り立ちについてより専門的な知識を身につける。世界でスペイン語を母国語とする国々のことばについて概観する。	ラテンアメリカのスペイン語について、音声的、統語的、意味的、形態的に考察する。アメリカ合衆国におけるスペイン語の重要性を政治的、経済的側面から理解できるようになる。	○		◎		○		
スペイン語圏と日本	講義	2・3・4	2	スペインならびにラテンアメリカと日本のあいだに繰り広げられた歴史的事象を概観するとともに、現代におけるさまざまな交流事情についての理解を深める。	南蛮時代に始まる日本とイベリア半島およびアメリカ大陸との関係史に関する知識を深めるとともに、近代以降から現代にいたるまでの日本におけるスペイン語圏諸国との文化、政治、経済交流のありかたを検証できるようになる。	◎		○			◎	
スペイン語圏文学1	講義	2・3・4	2	スペイン語圏言語文化の本質を表象する主要文学作品を紹介するとともに、文学作品解釈を通して、スペイン社会の理解を深める。中世から19世紀までの主な文学作品を中心に進める。	スペイン語圏言語文化の本質を表象するスペイン語圏の代表的な文学作品の読解および関連の映画作品の視聴を通じて、スペイン語圏文学とその背景にある歴史・社会・文化をより一層理解できるようになる。	○		◎		○		
スペイン語圏社会文化論1	講義	2・3・4	2	スペインの社会はどのような社会なのか。それを知ることがこの授業の目的である。そのために、まず、スペインの社会に関する基本的な情報を得る。その上で、現代のスペイン社会が抱える諸問題を理解する。	現代のスペインの社会は、どのような歴史の積み重ねの結果なのか。それはどのような特徴を持つ社会なのか。さらに、現代のスペインはどのような社会問題を抱えているのか。そのような問題が生じる歴史的な背景と要因は何なのか。以上を、基礎的な知識を得て理解できるようになる。	○		◎			○	
スペイン語圏文学2	講義	3・4	2	スペイン語圏言語文化の本質を表象する主要文学作品を紹介するとともに、文学作品解釈を通して、スペイン社会の理解を深める。20世紀の主な文学作品を中心に進める。	スペイン語圏言語文化の本質を表象するスペイン語圏の代表的な文学作品の読解および関連の映画作品の視聴を通じて、スペイン語圏文学とその背景にある歴史・社会・文化をより一層理解できるようになる。	○		◎		○		
スペイン語圏社会文化論2	講義	3・4	2	ラテンアメリカの社会はどのような社会なのか。それを知ることがこの授業の目的である。そのために、まず、ラテンアメリカの社会に関する基本的な情報を得る。その上で、現代のラテンアメリカ社会が抱える諸問題を理解する。	現代のラテンアメリカの社会は、どのような歴史の積み重ねの結果なのか。それはどのような特徴を持つ社会なのか。さらに、現代のラテンアメリカはどのような社会問題を抱えているのか。そのような問題が生じる歴史的な背景と要因は何なのか。以上を、基礎的な知識を得て理解できるようになる。	○		◎			○	
スペイン語科指導法1	講義	3	2	初級スペイン語の教育に必要な知識と指導法を身につける。学習時間、到達度、評価などの問題について学ぶ。	学習指導案を作成し、初級スペイン語文法を高校生にわかりやすく説明することができる。ルーブリック、テスト等を作成できる。					○	◎	○
スペイン語科指導法2	講義	3	2	中級スペイン語教育に必要な知識と指導法を身につける。模擬授業を通して、実践的なスキルを習得する。学習時間、到達度、評価の問題などについて学びを深める。	学習者の個性にあわせた指導案を臨機応変に作成できる。模擬授業を繰り返し、よりダイナミックかつ双方向的な授業を展開できる。自分の授業を客観的に評価し、課題を見つけることができる。					○	◎	○

外国語学科ブラジルポルトガル語コース カリキュラムマップ(2025年度入学生)

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(ブラジルポルトガル語)の学位を授与します。 ①本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ②ブラジルのことば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③ブラジルポルトガル語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④異文化理解を踏まえたブラジルポルトガル語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤あらゆる分野でブラジルポルトガル語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥国際的に通用する高度なブラジルポルトガル語を駆使して日本と海外の橋渡し役になうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)											
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
ブラジルポルトガル語A(文法・読解)	演習	1	2	ブラジルポルトガル語の初級レベルの文法を学ぶ。	ブラジルポルトガル語の初級文法の学習を中心に進め、それらの用法を習得する。また習得した文法が使われた短いテキストの読解を目指す。	○	◎		○			
ブラジルポルトガル語A(コミュニケーション)	演習	1	2	ブラジルポルトガル語の初級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	ブラジルポルトガル語の単語・表現を学習しながら基礎的な日常会話力を身につける。	○	○		◎			
ブラジルポルトガル語A(語彙・発音)	演習	1	1	ブラジルポルトガル語運用能力の基礎となる語彙力および発音を学ぶ。	映像・音声教材を用いて、日常会話で使われる基本表現の音読ができることを目指す。	○	◎		○			
ブラジルポルトガル語A(リスニング)	演習	1	1	ブラジルポルトガル語運用能力の基礎となるリスニングを学ぶ。	映像・音声教材を用いて、日常会話で使われる基本表現の聞き取りができることを目指す。	○	○		◎			
ブラジルポルトガル語B(文法・読解)	演習	1	2	ブラジルポルトガル語の初級レベルの文法を学ぶ。	ブラジルポルトガル語の初級文法の学習を進め、それらの用法を習得する。ヨーロッパ言語共通参照(CEFR)のレベルA1を目指す。	○	◎		○			
ブラジルポルトガル語B(コミュニケーション)	演習	1	2	ブラジルポルトガル語の初級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	ブラジルポルトガル語の単語・表現を学習しながら基礎的な会話力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1を目指す。	○	○		◎			
ブラジルポルトガル語B(語彙・発音)	演習	1	1	ブラジルポルトガル語運用能力の基礎となる語彙力および発音を学ぶ。	映像・音声教材を用いて、日常会話で使われる基本表現の音読を習得する。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1を目指す。	○	◎		○			
ブラジルポルトガル語B(リスニング)	演習	1	1	ブラジルポルトガル語運用能力の基礎となるリスニングを学ぶ。	映像・音声教材を用いて、日常会話で使われる基本表現の聞き取りを習得する。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1を目指す。	○	○		◎			
ブラジルポルトガル語C(文法・読解)	演習	2	2	ブラジルポルトガル語の中級レベルの文法を習得する。かつ習得した文法が用いられるテキストの読解力の錬成をはかる。	ブラジルポルトガル語の中級文法の学習を進め、それらの用法を習得する。ヨーロッパ言語共通参照(CEFR)のレベルA1を確実に達成することを目指す。	○	◎		○			
ブラジルポルトガル語C(コミュニケーション)	演習	2	1	ブラジルポルトガル語の中級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	ブラジルポルトガル語の単語・表現を学習しながら中級レベルの会話力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1を確実に達成する。	○	○		◎			
ブラジルポルトガル語C(作文)	演習	2	1	ブラジルポルトガル語の中級レベルの文法を用いた作文能力の錬成をはかる。	ブラジルポルトガル語の既習の単語・表現を用いて中級レベルの作文力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1を確実に達成する。	○	○		◎			
ブラジルポルトガル語D(文法・読解)	演習	2	2	ブラジルポルトガル語の中級レベルの文法を習得する。かつ習得した文法が用いられるテキストの読解力の錬成をはかる。	ブラジルポルトガル語の中級文法の学習を進め、それらの用法を習得する。ヨーロッパ言語共通参照(CEFR)のレベルA2を目指す。	○	◎		○			
ブラジルポルトガル語D(コミュニケーション)	演習	2	1	ブラジルポルトガル語の中級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	ブラジルポルトガル語の単語・表現を学習しながら中級レベルの会話力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2を目指す。	○	○		◎			

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(ブラジルポルトガル語)の学位を授与します。 ①本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ②ブラジルのことば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③ブラジルポルトガル語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④異文化理解を踏まえたブラジルポルトガル語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤あらゆる分野でブラジルポルトガル語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥国際的に通用する高度なブラジルポルトガル語を駆使して日本と海外の橋渡し役をになうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)											
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
ブラジルポルトガル語D(作文)	演習	2	1	ブラジルポルトガル語の中級レベルの文法を用いた作文能力の錬成をはかる。	ブラジルポルトガル語の既習の単語・表現を用いて中級レベルの作文力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2を目指す。	○	○		◎			
ブラジルポルトガル語E(総合1)	演習	3	1	ブラジルポルトガル語の既習の文法、読解、語彙、リスニングの能力を総合的に用いて、読解を中心とした上級レベルの語学力の錬成をはかる。	ブラジルポルトガル語の上級レベルの読解を中心とした総合的な語学力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1を目指す。	○	◎		○			
ブラジルポルトガル語E(総合2)	演習	3	1	ブラジルポルトガル語の既習の文法、読解、語彙、リスニングの能力を総合的に用いて、リスニングおよび発音を中心とした上級レベルの語学力の錬成をはかる。	ブラジルポルトガル語の上級レベルのリスニングを中心とした総合的な語学力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1を目指す。	○	◎		○			
ブラジルポルトガル語E(コミュニケーション)	演習	3	1	ブラジルポルトガル語の上級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	ブラジルポルトガル語の単語・表現を学習しながら上級レベルの会話力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1を目指す。	○	○		◎			
ブラジルポルトガル語E(作文)	演習	3	1	ブラジルポルトガル語の上級レベルの文法を用いた作文能力の錬成をはかる。	ブラジルポルトガル語の既習の単語・表現を用いて上級レベルの作文力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1を目指す。	○	○		◎			
ブラジルポルトガル語F(総合1)	演習	3	1	ブラジルポルトガル語の既習の文法、読解、語彙、リスニングの能力を総合的に用いて、読解を中心とした上級レベルの語学力の錬成をはかる。	ブラジルポルトガル語の上級レベルの読解を中心とした総合的な語学力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2を目指す。	○	◎		○			
ブラジルポルトガル語F(総合2)	演習	3	1	ブラジルポルトガル語の既習の文法、読解、語彙、リスニングの能力を総合的に用いて、リスニングおよび発音を中心とした上級レベルの語学力の錬成をはかる。	ブラジルポルトガル語の上級レベルのリスニングを中心とした総合的な語学力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2を目指す。	○	◎		○			
ブラジルポルトガル語F(コミュニケーション)	演習	3	1	ブラジルポルトガル語の上級レベルの会話表現を学習し、それを用いたコミュニケーション力の錬成をはかる。	ブラジルポルトガル語の単語・表現を学習しながら上級レベルの会話力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2を目指す。	○	○		◎			
ブラジルポルトガル語F(作文)	演習	3	1	ブラジルポルトガル語の上級レベルの文法を用いた作文能力の錬成をはかる。	ブラジルポルトガル語の既習の単語・表現を用いて上級レベルの作文力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2を目指す。	○	○		◎			
ブラジルポルトガル語G(総合)	演習	4	1	ブラジルポルトガル語の上級レベルの実践的な語学力の錬成をはかる。	ブラジルポルトガル語の既習の文法、語彙、読解、会話、リスニングおよびコミュニケーションの能力を駆使して、上級レベルの実践的な語学力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルC1を目指す。	○	◎		◎			
ブラジルポルトガル語H(総合)	演習	4	1	ブラジルポルトガル語の上級レベルの実践的な語学力の錬成をはかる。	ブラジルポルトガル語の既習の文法、語彙、読解、会話、リスニングおよびコミュニケーションの能力を駆使して、上級レベルの実践的な語学力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルC1を目指す。	○	◎		◎			
伝道ブラジルポルトガル語1	演習	3・4	1	天理教教理を体系的に理解したうえで、ポルトガル語話者に対して教理を正しく伝えるための知識と語学力を習得する。	ポルトガル語に翻訳された天理教紹介パンフレットや教義書をテキストに用いて、基本的な教語や表現が理解できるようになる。また、ブラジルにおける天理教伝道の歴史や現状についても知ることができる。		○		○		◎	
伝道ブラジルポルトガル語2	演習	3・4	1	天理教教理を体系的に理解したうえで、ブラジルポルトガル語話者に対して教理を正しく伝えるための知識と語学力を習得する。	ポルトガル語に翻訳された天理教紹介パンフレットや教義書をテキストに用いて、基本的な教語や表現が理解できるようになる。また、ブラジルにおける天理教伝道の歴史や現状についても知ることができる。		○		○		◎	
ブラジルポルトガル語で学ぶ日本文化	演習	3・4	1	ポルトガル語話者に対して日本文化を説明できる語学力を習得する。あわせて、日本文化の理解も深める。	日本の伝統文化からアニメーション文化まで広く日本文化の理解を深め、ポルトガル語話者に正確に説明できる、上級レベルのポルトガル語力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1、B2、C1を目指す。	○	○				◎	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(ブラジルポルトガル語)の学位を授与します。 ①本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性・多様性) ②ブラジルのことば、文化、社会の知識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(知識・技能) ③ブラジルポルトガル語の語学力を土台として専門性の高い学問を語学、文学、文化、社会などの領域について探究することができる(思考力・判断力・表現力) ④異文化理解を踏まえたブラジルポルトガル語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力・技能・表現力) ⑤あらゆる分野でブラジルポルトガル語を用いて活躍することができる(知識・技能・主体性・多様性) ⑥国際的に通用する高度なブラジルポルトガル語を駆使して日本と海外の橋渡し役をになうなど、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(貢献性・主体性・多様性・協働性)					
	科 目 名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標 ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要
						① ② ③ ④ ⑤ ⑥
	観光ブラジルポルトガル語	演習	3・4	1	日本を訪れるポルトガル語話者とのコミュニケーションおよびブラジル観光に求められるブラジルポルトガル語表現を習得する。	日本を訪れるポルトガル語話者をサポートできると同時に、ブラジルを観光する日本人をサポートできる中級から上級レベルのポルトガル語力を身につける。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1、B2、C1を目指す。
	ブラジルポルトガル語コミュニティ通訳	演習	4	1	通訳の理論を学び、ブラジルポルトガル語の実践的なトレーニングを行う。	日本語からポルトガル語、ポルトガル語から日本語の双方向の通訳を対象とし、日本におけるブラジル人コミュニティに関わる多様な実践的教材を使用し、通訳のトレーニングを行う。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルC1を目指す。
	ブラジルポルトガル語コミュニティ翻訳	演習	4	1	翻訳の理論を学び、ブラジルポルトガル語の実践的なトレーニングを行う。	日本語からポルトガル語、ポルトガル語から日本語の双方向の翻訳を対象とし、日本におけるブラジル人コミュニティに関わる多様な実践的教材を使用し、翻訳のトレーニングを行う。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルC1を目指す。
	ブラジル研究入門	講義	1	2	ブラジルに関する基本的な情報を知り、ブラジルの社会と文化の成り立ちを理解することを通してブラジル研究の土台を養う。	ブラジルの地理と歴史を学ぶとともに、今日のブラジル社会と文化の特徴を理解できる。ポルトガル語習得の動機づけとなる学習を目指す。
	ブラジル史	講義	2・3・4	2	ブラジルの歴史を通史的に学び、ブラジル研究の土台を養う。	先住民の歴史から「大航海時代」を経て、植民地時代、独立後、近代といったブラジルの歴史を理解することを目指す。
	ブラジル社会文化論	講義	2・3・4	2	ブラジルの社会・文化に関する基本的な情報をもとに現代ブラジルが抱える諸問題を考察する。	現代ブラジルの社会・文化の状況を理解するために、ブラジルの基本的な情報、とくに、歴史と社会の成り立ち、文化の成り立ちを理解する。
	ブラジル言語文化論	講義	2・3・4	2	ポルトガル語の系統およびその成立と、ブラジルのポルトガル語の特徴を音声的、統語的、意味的側面から概説する。また、ブラジル社会の多様性といった状況も幅広く理解する。	ブラジルポルトガル語を共時的、通時的に学び、言語の系統と成り立ちについて基本的な知識を身につける。言語を通してブラジルの社会的文化的状況を理解できる。ポルトガル語学の専門的な知識を身につけることを目指す。
	ブラジルと日本	講義	2・3・4	2	ブラジルと日本の交流の歴史と現状を理解する。	ブラジルの日本人移民および日本在住のブラジル人といった両国の人的交流・文化的関係、政治・経済から見る両国の関係を歴史的に概観し現状を理解する。